

平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 三重大学教育学部附属中学校

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他（ ）

所在地 〒514-0062
三重県津市観音寺町471

E-mail http://www.fuzoku.esu.mie-u.ac.jp

Website Webmaster@fuzoku.edu.mie-u.ac/jp

児童生徒数 男子 216 名 女子 216 名 合計 432 名
 児童・生徒の年齢 13歳～15歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（ ）

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

本校では、平成24年度にユネスコスクールへの登録を経て、平成25年度よりESDの理念等を鑑みた具体的な取組を始めたところである。3年目となる本年度の目標と主な活動計画、実際に取り組んだ活動内容を次に記す。

<目標>

自ら主体的に学び、考え、行動する生徒の育成

～誰かの役に立てる人づくり～

<年間計画>

- 現在取り組まれている教育活動を全体的に見直し、ESDの取組として捉え直すとともに、ESDと結び付けた実践を推進する。
- 生き方学習としての震災学習を推進する。
- FCSの取組等、ESDの理念に基づいた生徒の主体的な取組を推進する。
- TV会議システムの効果的な活用方法について検討する。

<活動内容>

① 天津師範大学附属実験中学校との交流

平成17年度より始まった国際交流である。本年度は10月17日から22日までの6日間、本校から3名の教師と4名の生徒の7名が訪問した。訪問先では、代表生徒とのディスカッション等、さまざまな形での交流を行った。今回は、フィンランドやスウェーデンの学生も同時期に交流を行っていたことにより、これまでも増して、多様な文化について学べる貴重な機会となった。

② 国際福祉活動部の活動

津ユネスコ協会による子どもユネスコの集いに参加した。三重大学の留学生(タイ・台湾・ベトナム)を交え、各国の暮らしや文化について学ぶ機会を得た。

③ FCS(附属チャレンジスクール)の活動

学年の域を超えた仲間との協働によって課題解決的な学習活動を行う、サークル活動である。「三重の明日をつくる人づくり ～明日の三重を担えるよう、さまざまな観点から自分たちの暮らす三重の地を見つめ直そう。三重の良さを再発見し、今後自分たちが向き合っていくべき課題を見出そう。課題解決のためにできることを行動に移そう。」を主テーマに、35名の生徒が取り組んだ。

三重の歴史・三重の食文化・三重の防災・三重の医療(自然災害発災時の救急医療・新生児救急医療)・三重の偉人等希望するテーマ毎に4人～5人程度のグループを編成し、研究計画に沿って取り組んだ。三重大学の先生方には、教育学部をはじめ、工学部・医学部、みえ防災減災センター等多々指導助言を得ることができた。また、津市役所や三重病院の先生方にも指導助言をいただいた。生徒の多くは、将来の進路希望とも重ねて取り組んだので、大学をはじめとする各機関への訪問は、キャリア教育推進のねらいに迫るものにもなったのではないかと感じている。

今後は食文化グループの提案による地場産物を活用したリクエスト給食や、信州大附属松本中学校とのTV会議システムによる交流を予定している。

④ エネルギー・環境教育の取組について

三重大学と中部電力の共催であるエネルギー・環境教育授業実践プロジェクトに、数学科・国語科・家庭科が参加した。

⑤ 震災学習講演会について

本年度は、自分たちの住む三重の防災における自助・共助の重要性と必要性について、また、リスクマネジメントの視点で主体的に課題に向き合う姿勢と態度の育成をめざし、三重大学教育学部社会科教育教授の宮岡邦任先生にご講演いただく予定である。「地域のつながり」や「未来とのつながり」を意識しつつ、総合的に人を育てるものとして位置付けていきたいと考えている。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）